

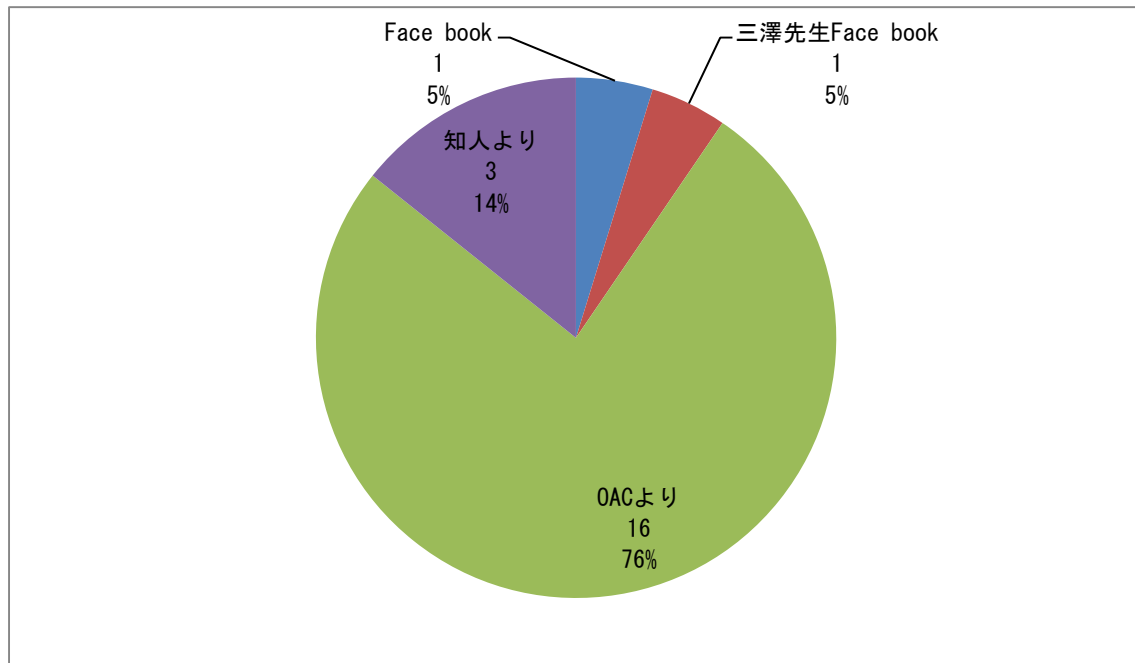
クリエイティブの未来に向けて 教育の試みと課題アンケート

【企業・団体関係】

参加者数37

回答数21(回収率57%)

1. この会を知ったきっかけは？



2. 開催時期について

全員がこの時期で適当であると回答。

3. この回に参加された理由

- 教育・実業界の現状を直接聞いてみたかったから
- デザイナー職に応募してくるのが女性がほとんどなのは何故か知りたかった
- 日本におけるクリエイティブの位置と業界に入ってくる人材レベルに関心があった
- 地域とアートをつなげる活動をしており、学校と美術・アートの関わり方が知りたくて
- 美術教育と広告業界というテーマに関心があったので
- 現状の日本のクリエイティブ力が低下しているように思うので、今後の施策を知りたかった
- デザインの教育に関心があった
- 美術教育の現場の現状に危機感を感じていた
- デザイン教育の可能性を探りたくて
- 人材育成＝学生の現状と課題を知りたくて

- 教育現場と企業とのニーズのギャップを肌で感じたくて
- 現場の先生方の生の声を聞きたかった
- 新卒社員の社会人力の背景を知ること、各学校のキャリアセンターとの情報交換
- 美術系学生や若手クリエイターネットワークを持つ会社として、現状の課題を知りたくて
- 根本を見つめるキャリア教育を考える取組だと感じたので

4. 小学校の取組と課題 講演に関する意見・感想

(横浜市立明浜小学校・元横浜国立大学附属鎌倉小学校 高松智行氏)

- 高松先生の問題提示には強く共感した
- 「小学生の過剰適応」と言う話には驚いたが、本当の自分を見つめる手段として美術があるという考えには大いに賛同する
- 予定調和を壊すことで生徒と教員の心情の変化が起きることが伝わってきた
- 高松先生の取組は素晴らしい。が、しかし誰もが出来るわけではないか・・・
- 「社会につながるための手段」と言う美術の意義に同感！
- 子どもの「子ども主体」・「予定調和を壊す」、印象に残る言葉です
- 高松先生のバイタリティに拍手！
- 教育の根本の問題について説明いただき、最初の発表者として大変良い講義でした
- 小学校における実態を知ることができ有意義。先進的な取り組みに感銘
- 小学生の「受け身」を野生・即興性の弱体化と論じていた点は納得できる。地域や家庭で満たされない「全人間性」を学校へ持ち込む小学生と「仮構性」を保とうとする教師とのギャップの指摘も印象的だった

中学校の取組と課題 講演に関する意見・感想

(北翔大学 准教授 山崎正明氏)

- 山崎先生の危機感が伝わってきました
- 美術教育は心を育む教育。その時間が削られるのは深刻な事態だと痛感
- 教育方針の変化により学力向上を優先することで、美術の授業の危機が明確になった
- どのようなチカラやココロを育てるか。これは小学校～大学まで全てに当てはまる
- 美術の時間と教員の減少にショック
- 「中学校美術 Q&A」サイトを見たいと思います
- 美術教育の置かれた現状の厳しさが理解できたとともに、新たな取り組みを知ることができた
- 美術は蚊帳の外。美術教育の危機を感じた
- 道内の美術教員の4割が「免許外教科担当」として美術を受け持っていると言う事実には驚かされた。特に体育教諭が美術を教えている例もあると言う事実には

高等学校の取組と課題 講演に関する意見・感想
(東京都立総合芸術高等学校 校長 佐藤清親氏)

- 芸術教育に関して国を動かすにはどうしたらよいか、考えさせられた
- 芸術に特化した学校だから出来ることと、一般の学校では学力優先の方向で芸術に目が行かないことの現実を今後どうしていくべきか
- 高校も厳しい現状であることが理解できた
- 自分事ですが高校時代は理系クラスで文系クラスに比べ美術の時間が少なかったのを思い出した
- 国を動かすための協力にて何が出来るのか。業界の一員として考えたいと思いました
- 教える立場での危機意識がよく理解出来ました
- 写生を経験しない生徒が40%もいるなんて信じられません
- 美術教育への軽視傾向が中学校と同様に危機的であると伝わってきました

クリエイティブ系専門学校の取組と課題 講演に関する意見・感想
(東洋美術学校 キャリア支援部 矢崎望氏)

- データは参考になりました。もう少し現場の生の声が聞ければよいと感じました
- 広告業界を目指す学生は10年前の3分の1と言う話はショック
- 小中高との連携をうまく行うこと、クリエイティブの意義を教えることで専門学校独自の意味が変わっていきそう
- 初めて聞く意見が多く参考になった
- 様々な意見を取りまとめられていて参考になった
- 専門学校の現状と企業への要望等が当アニメーションの協会でのヒアリング結果とが同様に参考になった
- カッターが使えない学生がいる。手を動かすことが大切。共感できます。
- 産学協同授業というのは主として学校側のロジックやスピード感で進められるが、キャリア学習の視点からすれば企業側のそれに歩み寄るべきではないか

美術大学の取組と課題 講演に関する意見・感想
(武蔵野美術大学 教職課程 教授 三澤一実氏)

- 「旅するムサビ」の取組は面白い。もっと広域に根付いてほしい
- 「旅するムサビ」など、子どもたちを対象とした取組に感銘を受けた
- 対話やコミュニケーションを通じた活動に可能性を感じた
- 「鑑賞は受け身ではない」、「アートは日常に異質を持ち込める」と言う言葉が印象的。
- ワークショップの有効性を再認識した

- 小学校～高校への働きかけ、活動の先進性と効果がよく理解できた
- 対話による鑑賞授業、黒板ジャックなどに感動
- 美術(アート)を社会と対話の媒介とする活動には大いに興味を持った。黒板ジャックが学校と言う空間をクリエイティブに変える話など

制作業界の取組と課題 講演に関する意見・感想

(株)博報堂プロダクツ 企画制作事業本部 本部長補佐 鍬形治氏)

- 今の若者は「欲が無い」と言うのは我が社でも共通している
- クリエイティブを学んだ先の未来が感じられてよかった
- 広告業界が元気そうで驚き。パワーとマナーをぜひ教育現場へ還元してほしい
- デザインとテクノロジーとの教育の関係性について考えさせられた
- デジタル化対応。コスト、スピード、クオリティ対応。「野心」についてはアニメ業界でも同一の課題
- 教育界への要望としてクリエイティブの「基本の“き”」を強調されていたのは同感

企業の取組と課題 講演に関する意見・感想

(トヨタ自動車株式会社 デザイン本部 プロフェッショナルパートナー 菅原重昭氏)

- デザイン云々よりも企業体としての姿に興味を持ちました
- 感動(サプライズ)を与える仕事＝クリエイティブ、と再認識
- 具体的なモノづくりのフローが見られてよかった
- クルマ離れとデザインの可能性について考えさせられた
- 海外対応の必要性和業界としての認知と取組に必要性を他業界だが共感した
- 人間力はデザイン力。普遍です。
- 企業が求めるものを明確に語った姿に感銘
- さすがトヨタ。人材育成のロードマップデザインが確立されている

5. 講演全般について

- 興味深いお話を伺えました、中学校時代は創造性や感性を育てるうえでのターニングポイント。もっと生み出すことや考えることは小さい頃からの体験が大切であることを再認識しました
- 高松先生のお話が非常に示唆に富んでいると思いました。教科間の陣取り合戦は何も生まない。主要 6 教科とのコラボを積極的に模索するといった取組がぜひとも必要と考えます
- 皆さんの「決意」を感じました
- 単に危機感や愚痴の発露に終わらず、情熱、エネルギー、想いを持って未来にチャレンジしていただいていることがひしひしと伝わってきました。先生方の不断の努力に頭が下がります

- 一つ一つの講演内容全てが興味深い内容でした。特に学校現場の課題は自社にも当てはまる内容もありました
- 教育サイドのお話が多かったので、産業界や政界、官庁などの話があってもよかったかも

6. 全体ディスカッションについて

- 美術教育界から業界への期待が大きいことを感じました
- ポスターを描いてデザイン授業か？という課題についてのやり取りを面白く拝聴。先頃、中学の美術授業にデザイナーの方に参加して頂いたり、中学生が気軽に参加できるデザイン講座を実施しましたが、中学生はデザインを仕事にしている方の話を聞いて刺激を受けることは重要だと考えています
- 本質的な話が多くよかった
- 美術とデザインの関係性をもっとわかりやすく且つ連携していけたらと考えます
- 今まで美術教育は注目されていなかった。という言葉が印象に残りました
- 子どもが作品を創るだけでなく、考える機会と場を持ち、子ども主体の教育が求められていることがよく理解できました
- 課題と個々の想いが強いので、分科会等を設けたらよいのではと思いました
- もっとキャッチボールが必要と感じました
- 活発な意見交換が出来ました。OACの出来ることと現場で困っている問題をマッチングさせて具体的なプロジェクトを見つけていきたいと思います
- テーマをいくつか設け、より少人数に分かれてディスカッションするのも良いのではと思いました
- 教育界と実業界のものの見方の違いがもっと浮き彫りになり、時には対立点が露わになるような議事運営(誘導)だったら更に面白くなったかも

7. 感想・ご意見・要望等

- 普段聞けないような話がたくさんありました。今後も教育現場と企業との交流が出来るイベントを期待しています
- かなり有意義だった。危機意識も強いことが理解できた
- 今後も継続して欲しい
- 教育現場の方々の様々に工夫された取組を知ることが出来て勉強になった
- 各分野の情報を広範囲に得られて大変感謝。今後も継続開催を希望
- クリエイティブコンテンツの一つであるアニメ業界として、人材育成部分で連携できることを模索していきたい
- 講演内容が多すぎたかもしれません。各講演が20分で終わるとは考えられませんでした。
- 子どもへの教育はシニア世代でも社会的責任があると考えます。自分の想いの中で子どもたちに作る喜びを体感させたいと感じました。

- 今回のようなセミナー形式だけではなく、グループ討議、ワークショップ形式などのスタイルも有効ではないかと感じました
- このような意見交換は子どもたちの未来に必要なことだと感じた
- 関係各位の情熱・想いをシェアできた良い機会でした。特に小・中学生に対する OAC の協力関係強化には、それを実施した際の高い効果と現場の先生方への応援が可能ではないかと感じました。今後教育現場への協力プロジェクトを推し進めていきたいと思います。また更に実業界、政界、官界の関係者を呼び込んで活動を続けていきたいと思います